

# 岐阜大学とアニマルウェルフェア産学共同研究

昨年11月1日に、京都市の京都女子大学で開催された第13回日本たまご研究会(会長川松田治男、岐阜大学名誉教授、事務局・榎フアーマフーズ内)で、安田勝彦氏(榎ハイテム社長)が「アニマルウェルフェアと採卵養鶏産業」の演題で「日本発信アニマルウェルフェア」を提言した(本紙2016年11月25日号既報)。ハイテム(本社・岐阜県各務原市テクノプラザ2-10)はこのほど、岐阜大学と2013年3月から行なってきた、科学的なアプローチによる「日本発信アニマルウェルフェア」の基礎データに関する第1群の研究(昨年終了)の結果を、要旨の通り公表した。

## 1. 試験方針

①コンベンショナル区を設け、トリの福祉度(従来型) ケージ、エンリッチドケージ、エンリッチャブルケージの試験 レス反応指標(血液採取によるH/L比測定)、リッチドケージ、エンリッチャブルケージの試験 レス反応指標(血液採取によるH/L比測定)、リッチドケージ、エンリッチャブルケージの試験 レス反応指標(血液採取によるH/L比測定)、リッチドケージ、エンリッチャブルケージの試験 レス反応指標(血液採取によるH/L比測定)。

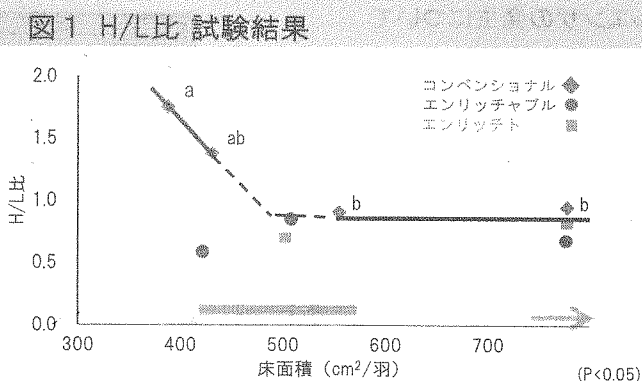


図1 H/L比 試験結果  
コンベンショナル ● エンリッチャブル ○ エンリッチト □  
日本慣行値 日本推奨値 EU規制値  
日本家禽学会2016年度秋大会発表データ (P<0.05)

## 研究結果の要約を公表

破卵・汚卵、産卵成績の比較試験を行なう。  
②1羽当たりの生活スペースは、コンベンショナルケージの慣行値390平方センチ(公社)畜産技術協会の飼育管理指針の最小スペース430平方センチ、エンリッチャブルケージの規制値500平方センチ、エンリッチドケージの規制値750平方センチの試験区を組み合わせる。

③平飼いをわが国の鶏卵生産のスタンダードとすることは、次の諸点から、消費者、生産者いずれにとっても現実的ではないので、産学共同研究の対象としない。  
i. その国の人口を可住国土面積で割った「可住面積人口密度(人/平方キロ)」は、米国の62人に対し、英国は154人(米国の3倍の人口密度)、ド

図2 破卵率

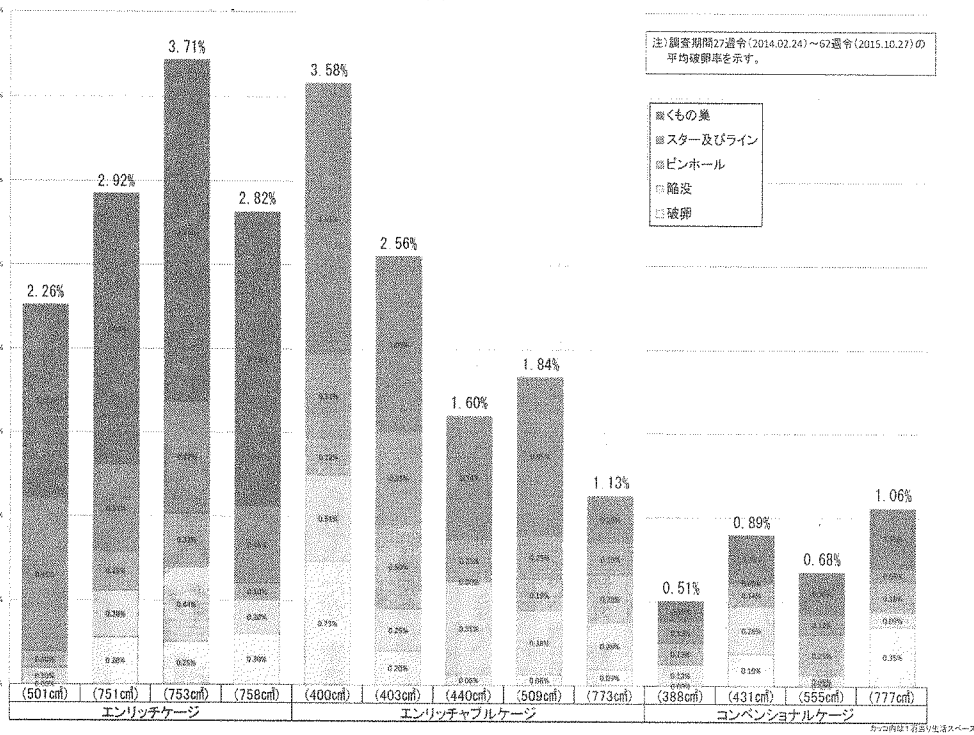
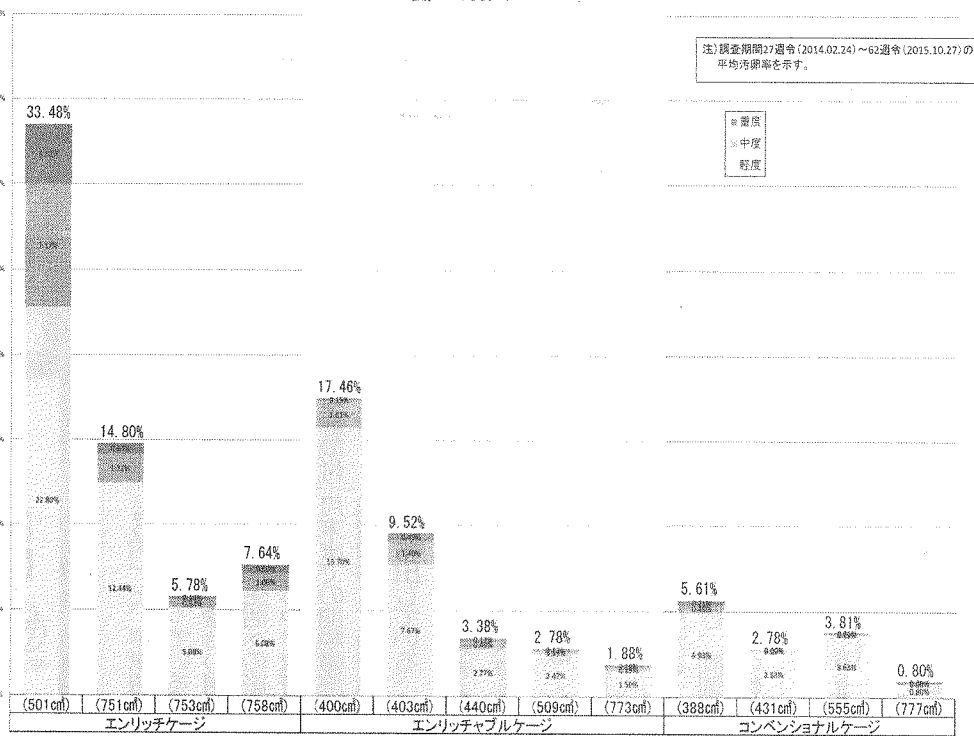


図3 汚卵率



イットは343人(同6倍)、日本は1231人(同20倍)という狭い国土の現実。  
ii. 欧米に比べ、総じて高温多湿。バクテリアが繁殖しやすい。抗生物質不使用を貴くためにも鶏糞とトリとの分離が望ましい。  
iii. 欧米に比べて、1人当たり年間鶏卵消費量が多い。英国の184個、ドイツの233個(英国の1.3倍)、1つのいずれのケージ型においても、福祉レベル(フエーザスコア、鶏冠の損傷スコア)は高かった。  
③鶏のストレスを示すは、コンベンショナルケージ、エンリッチドケージ、エンリッチャブルケージのいずれのケージ型においても、福祉レベル(フエーザスコア、鶏冠の損傷スコア)は高かった。  
④1羽当たり500平方センチ以上の試験区でリッチドケージ、エンリッチャブルケージで有意増加する【図3】。  
⑤ケージ破卵は、エンリッチャブルケージ、エンリッチドケージともに、1羽当たり生活面積が小さくなると増加が顕著である【図2】。  
⑥ケージ汚卵は、エンリッチャブルケージ、エンリッチドケージともに、1羽当たり生活面積が小さくなると増加が顕著である【図3】。  
ハイテムでは、生産者反復試験を、岐阜大学との産学共同研究で継続している。